

単施設用

(調査 ・ 研究) 実施についてのお知らせ

令和3年6月24日

【研究課題名】

解決困難な苦しみを抱えながら、我々は穏やかに過ごすことができるのか？
多職種で行う「援助を言葉にする」学習会の有効性に関する検討

【研究期間】

2021年4月1日～2024年12月31日

【研究対象】

2021年4月1日～2023年12月31日までの期間、ELC 沖縄主催の「援助を言葉にする」地域学習会に参加した参加者

【研究目的・意義】

解決困難な苦しみを抱える人に対して相手の言葉を受け止め、「反復」「沈黙」「支えを強める問いかけ」の技術を実際のロールプレイを通して学習することは、苦しむ人に対する援助への苦手意識を軽減させ、援助の担い手を増やす一助になる可能性が示唆される。また、参加者の「折れない心,レジリエンス」を育て、新型コロナウイルス時代という困難で苦しみが多い時代の中でも生きる糧となることができるかについて考察した質的研究。

【研究方法】

ELC 協会の作成した教材を元に、定期的に地域で学習会を行う。学習会は180分間で、前半90分は講義形式で援助的コミュニケーション,相手の苦しみをキャッチする,相手の支えをキャッチする,自らの支えを知るについてである。後半の90分はロールプレイを中心に行われ,苦しんでいる人に対して,苦しみを傾聴し,相手の言葉を反復すること,沈黙の重要性,支えを強めるような問いかけを繰り返し練習する。学習会終了後,参加者と双方向性のdiscussionを行い,学習内容についてreflectionを行ってもらう。学習会から3ヶ月以内に参加者へ連絡を取り,学習会の内容が実際の仕事現場や実生活で応用できているか,自分の考え方(概念)が変化しているかについて尋ねた。回答内容はファシリテーターで吟味,検討してcodingを行い,キーテーマを抽出する。

【研究に用いられる試料・情報の種類】

参加者から集めた **reflective journal** に対して **thematic analysis** を行い、その中からキーテーマを抽出してゆく。テーマを Kolb の学習モデルに基づき分析し学習成果について考察する。

【個人情報の取扱い】

参加者にはアンケート (**reflective journal**) の内容を臨床研究で用いることを口頭で承諾を得る。アンケートの内容は全て匿名化され、個人が特定されない形で使用される。また、本人または代理人から参加拒否の申し出があった場合には研究対象から除外する。匿名化した情報から研究対象者を識別するための対応表を作成する。この対応表の作成は研究責任者が行い、パスワードでロック可能な個人情報保管専用の USB に保管し、各施設の施錠可能な場所に研究責任者の下、厳重に保管する。

また学会発表時、論文作成時には個人が特定できる情報は用いない

【本研究に関する問い合わせ先】

沖縄県立中部病院 診療科名：呼吸器内科 担当人名：長野宏昭
沖縄県うるま市宮里 281 番地
TEL：098-973-4111 (代表)